



2025年5月21日

各 位

会 社 名 山洋電気株式会社  
代 表 者 名 代表取締役会長 山本 茂生  
(コード番号 6516 東証プライム市場)  
問 合 せ 先 常務執行役員管理部門統括 岩山 昌樹  
TEL. (03) 5927-1020

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組みについて

当社は、本日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、当社の現状を分析し、企業価値向上に向けた取り組み方針について決議いたしましたので、お知らせいたします。

内容につきましては、添付資料をご参照下さい。

以 上

山洋電気株式会社

資本コストや株価を意識した  
経営の実現に向けた取り組みについて

東証プライム市場：6516

2025年5月21日

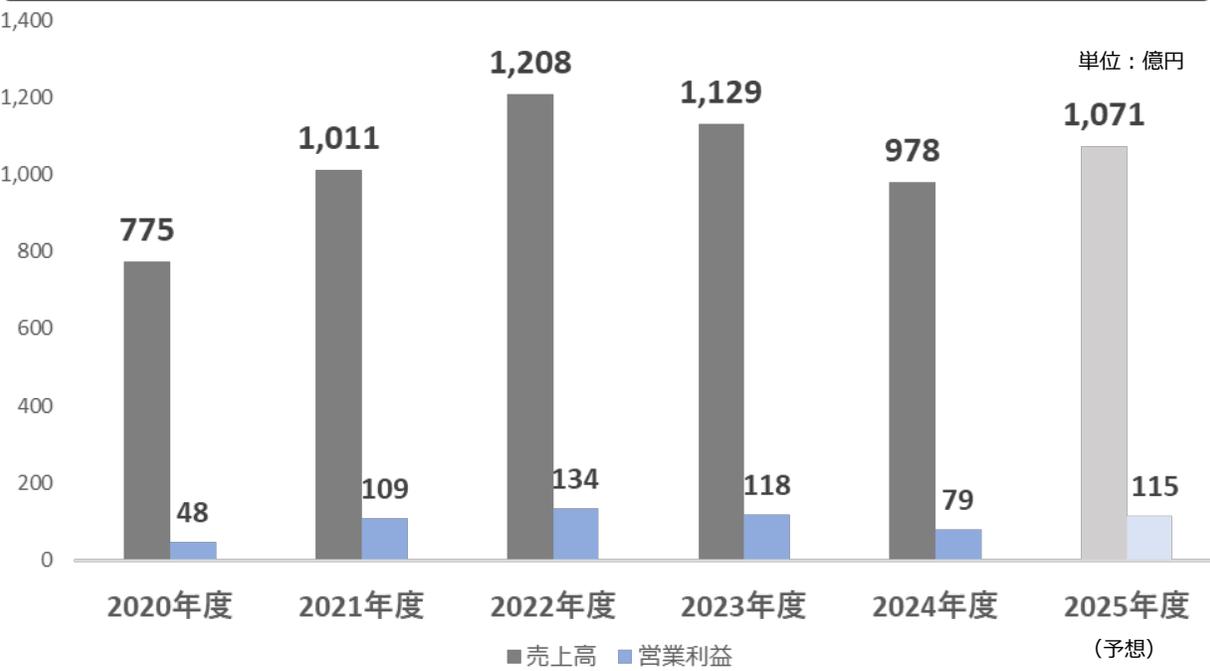
SANYO DENKI

- 1. 企業価値向上に向けた現状分析**
  - ・ 業績とPBRの推移
  - ・ ROEと株主資本コスト
- 2. 企業価値向上に向けた今後の取り組み**
  - ・ 成長戦略
  - ・ 株主還元の方針
  - ・ 株主・投資家との対話

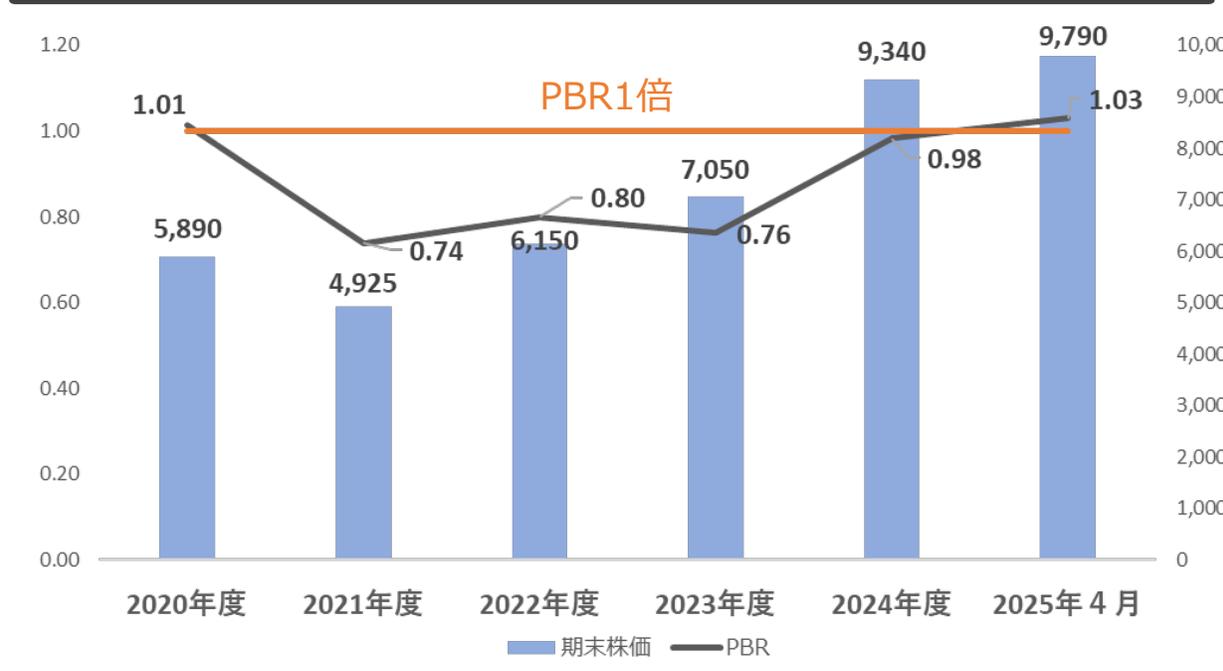
# 1. 企業価値向上に向けた現状分析 業績とPBRの推移

- 過去5年間の業績は、IT・通信、半導体、自動化投資などの最先端市場に向けた新製品開発と、新規ビジネスの拡大が進んだことから、2022年度には過去最高売上、利益を達成。
- 主要な販売市場である通信装置、ロボット、半導体製造装置等の投資抑制の影響から、一時的に業績は足踏み状態となるも、直近ではAI関連市場を中心に活発な需要が生まれつつあり、今期以降は再び成長基調となる見通し。
- 好調な事業成長の一方で、PBRは0.8～1.0倍前後の推移に留まっている。また、株価も上昇傾向にはあるが長年に渡り割安な水準で推移している。

業績の推移



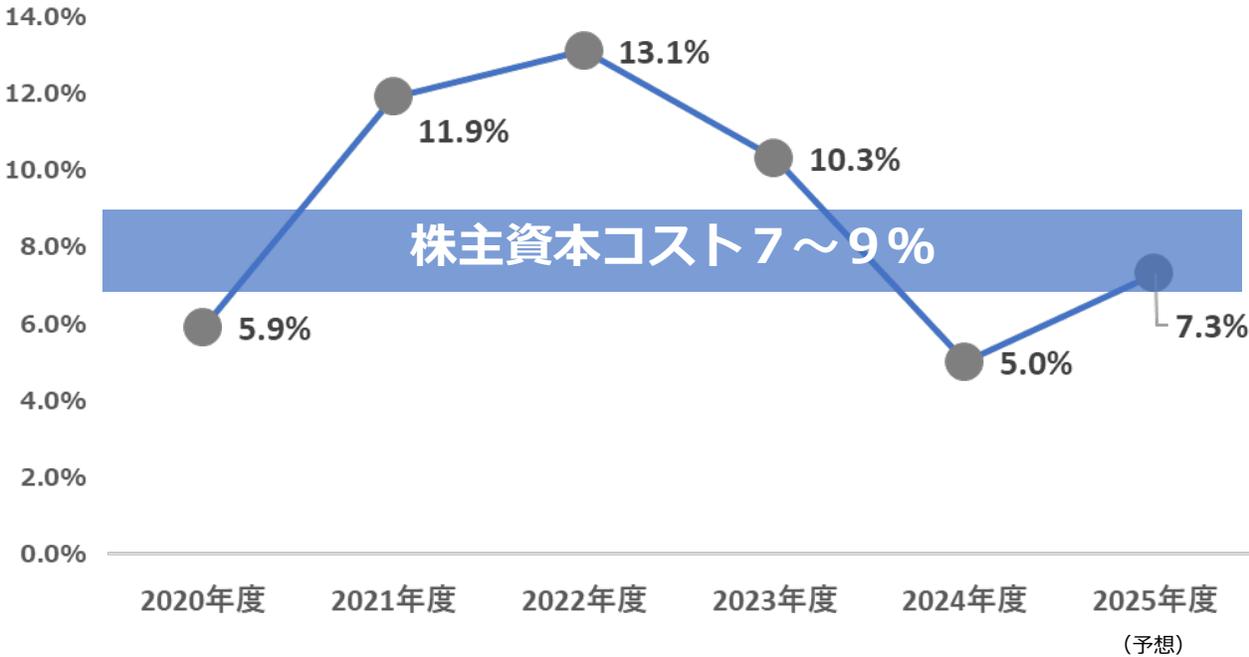
PBR・株価の推移



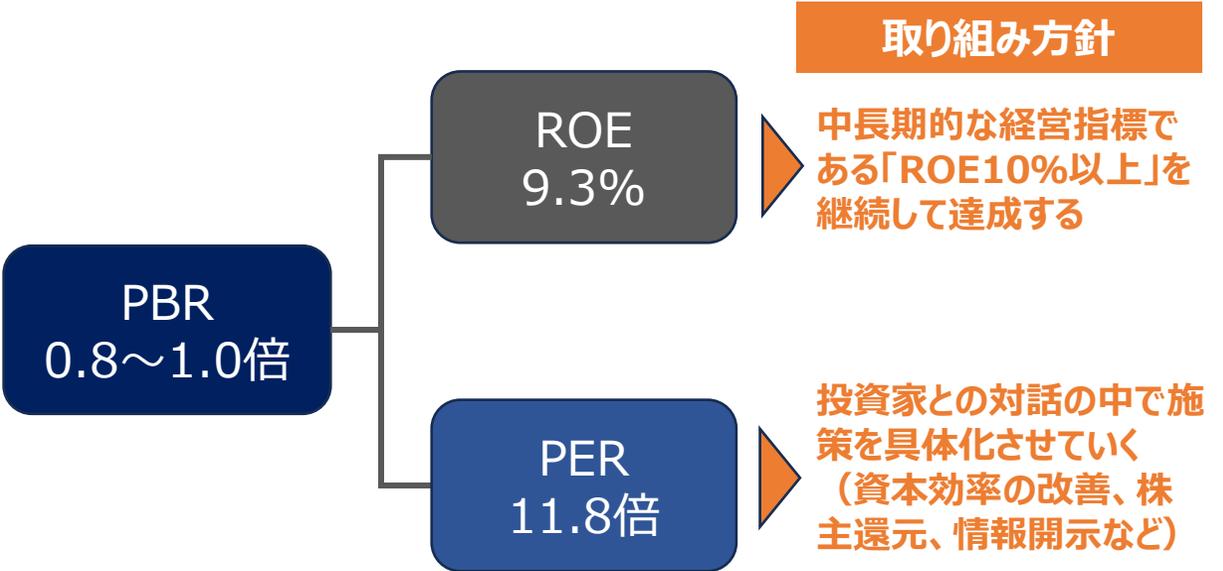
# 1. 企業価値向上に向けた現状分析 ROEと株主資本コスト

- 経営指標として「ROE10%以上」を目標としている。
- 株主資本コスト水準は7~9%を想定（CAPMモデル）している。
- 直近5年間のROE平均は9.3%であり、株主資本コストを上回る水準で推移している。
- 継続的にPBRが1.0倍以上となるためには、「稼ぐ力（ROE）×投資家期待（PER）」の向上が不可欠となる。ROE10%以上を維持する高付加価値ビジネスを引き続き展開するとともに、中長期的な視点でPERを向上させていくために、投資家からの期待を高めていくことが重要であると認識している。

ROEと株主資本コスト



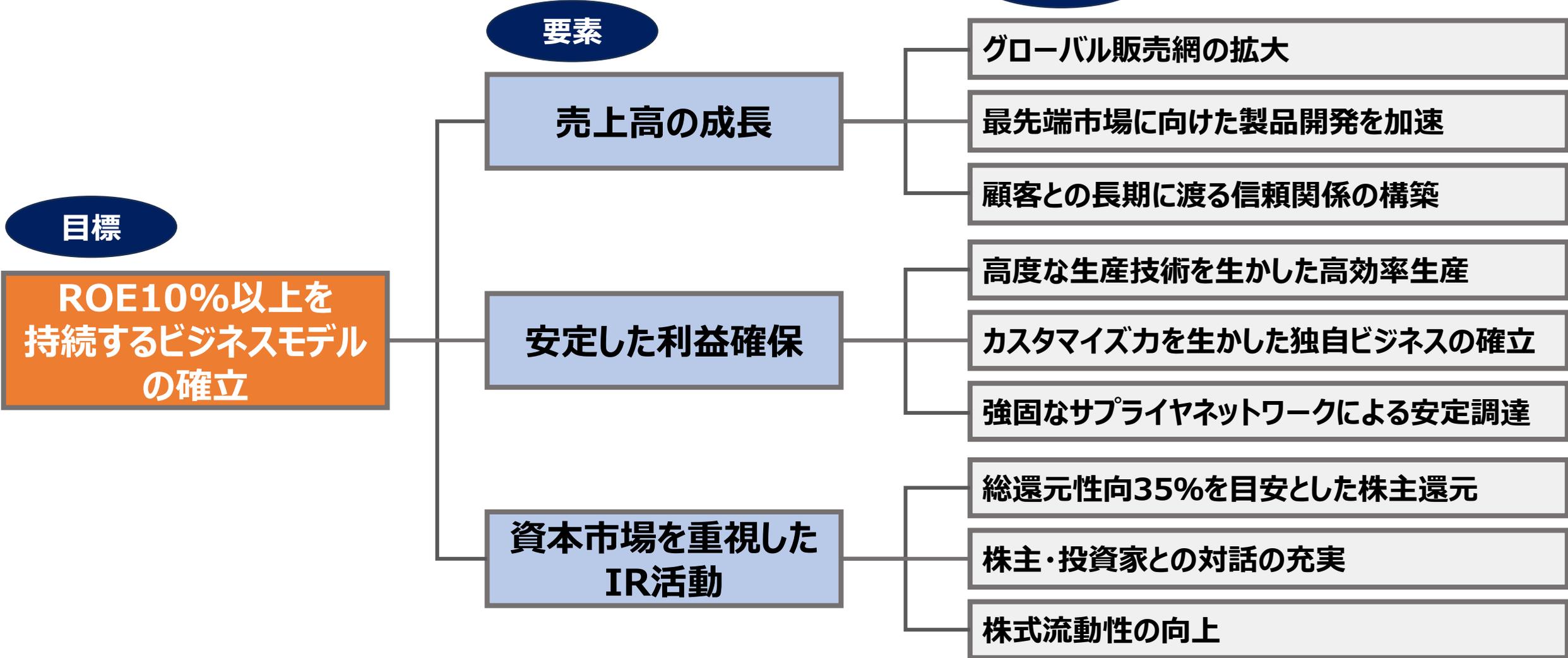
PBR分析



※PBR・ROE・PERは直近5年平均

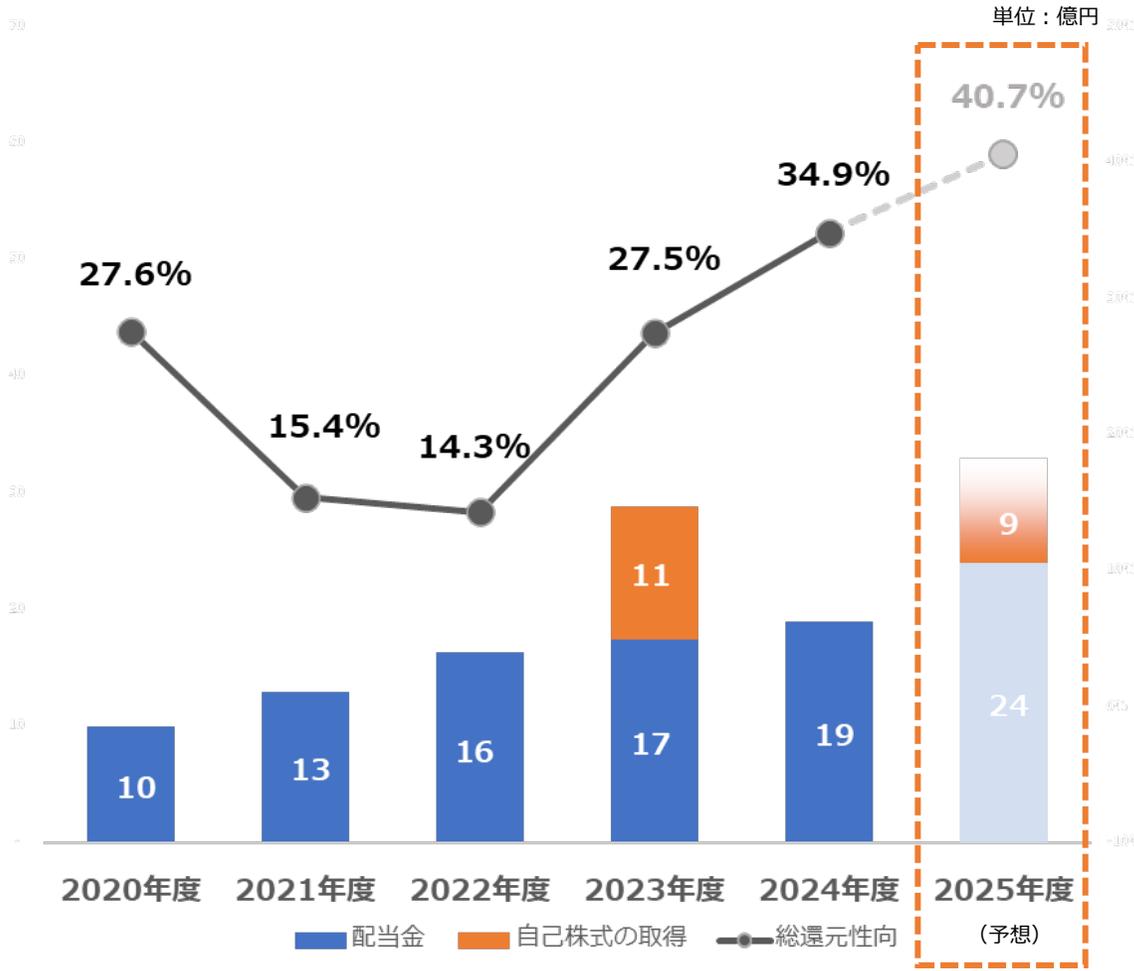
## 2. 企業価値向上に向けた今後の取り組み 成長戦略

「売上高の成長×安定した利益確保×資本市場を重視したIR活動」により、  
持続的な企業価値創造を実現する



## 2. 企業価値向上に向けた今後の取り組み 株主還元の方針

### 総還元性向35%（業績に応じた配当＋機動的な資本政策）を目安



**株主還元の方針**

**総還元性向 35%目安**

業績に応じた配当  
+  
機動的な資本政策  
(自己株式の取得など)

**2025年度予想**

配当性向 約30%  
+  
機動的な自己株買い

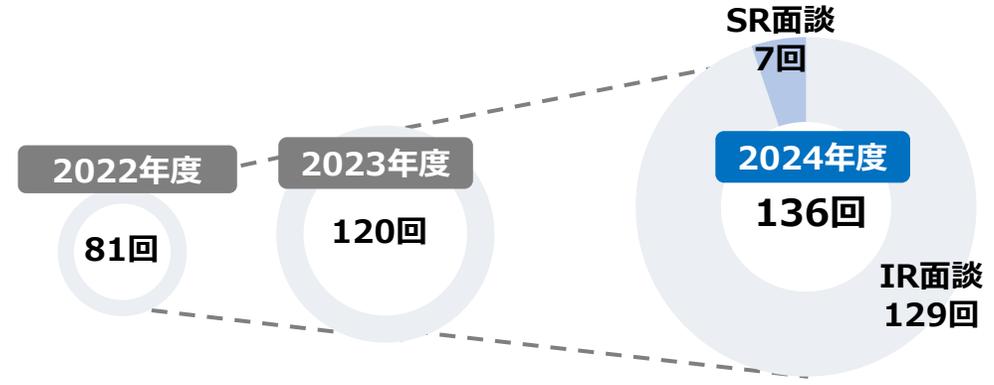
2. 企業価値向上に向けた今後の取り組み 株主・投資家との対話

株主・投資家との対話機会を増やし、山洋電気を正しく理解いただく

投資家向けイベントの実績

	2022年度	2023年度	2024年度
決算説明会	2回	2回	2回
スモールミーティング	1回	0回	1回
工場見学	0回	1回	1回

個別面談の回数



株主・投資家からのおもな要望

- 株主還元方針を明確にしてほしい。
- 資本効率を改善してほしい。
- 複数年度のキャピタルアロケーションを開示してほしい。
- 中期経営計画を数値で開示してほしい。
- 経営層との面談機会を増やしてほしい。
- 工場見学の機会を増やしてほしい。
- 他社との差別化要因を公開資料の中で明確にしてほしい。
- 投資単位を引き下げてほしい。

理解をより深く